

《廿日市市における細見谷林道工事は是非を問う、住民投票条例制定の請求》に賛成する立場で討論を行います。

まず、住民投票は、議会制民主主義を犯すものだ？と、いった声が今だにあります、先般の岩国市で実施された、岩国基地、増強の《是非を》問う、住民投票は、たんに《反対の票が多かった》というだけではなく、《全有権者の過半数を超える》といった結果は、防衛は国の専権事項だとして、強行姿勢をとっている政府に対して、大きなダメージを与えたばかりでなく、反対運動を進めている、我々にも、力と勇気を与えてくれている事は、皆さん、ご承知のとおりであります。

こうした有意義な使い方が、あるからこそ、議会制民主主義の中でも、国民に、住民投票の実施を求める権利が、法によって認められていることを、再認識する必要があると思います。

ところで8 / 3の中国新聞の広場の欄に、広島市西区の72歳の男性からの声が、掲載されておりましたので紹介しますと、

『国の借金は800兆円を超え、これを改善すべく増税に着手している。(三方一両損)と言いつつも、増税は、まず取りやすい弱者に向けられた。高齢者は、老年者控除の廃止・高齢者住民非課税制度の廃止・介護保険料などの引き上げ、さらに医療改革、関連法案による医療支出の増加等々(痛みを伴う)改革に悲鳴を上げている。』

このような状況にあって、限りある、税金の用途を厳密に選別するのは当然の事である。市庁舎の建設の凍結を訴えた市長や、新幹線駅建設の凍結を訴えた、県知事が選ばれたのは、優先順位をつけた税金の使い方に、多くの人々が共鳴し、支持をしたからである。

《廿日市市の細見谷林道の整備計画について》は、異なる視点から、賛否両論あるとしても、国・地方を問わず悪化する財政事情の中で、税金の使い方を、はっきり区別する事が重要であることは論をまたない。8月下旬には、建設の是非を問う、住民投票条例について、廿日市市議会での審議が行われるという事だが、林道整備に要する費用は27億円以上といわれている。

投資効率からしても、この林道整備が、この時期に、必要、欠くべからずのものとは信じ難い。市議会の民意を反映した、賢明な判断を期待したい。』

というもので、まさに、【私の言わんとする】ところでもあります。

このように、廿日市市民だけではなく、周辺地域の、多くの人達が、この件については、【この時期に、必要、欠くべからずのものとは、信じ難い、市議会の民意を反映した、賢明な判断を期待したい。】として、注目している事を忘れてはならないと、思います。

さて住民投票条例制定請求の要旨の前段には、この林道は30数年前に《林業振興》を目的として計画され、当初の予算は96億円であったが、完成部分の11kmに77億円を費やし、進捗率4割にして、予算消化率が8割となった。今年度、予算は106億円に増額されてはいるが、着工されようとしている13kmが、残りの29億円で、完成するとは

考え難い。

『工事費は、ほぼ全額が国税。県税・市税によって賄われ、完成後の維持管理費は、将来にわたって廿日市市が負担することになる。』と書いてあるわけですが、

そもそも、今回の【細見谷林道工事の件】については、《自然を守る》という皆さんの運動によって、その全貌が明らかにされ、多くの市民が知る事となり、いろいろと問題点が浮上しているわけですが、現在の厳しい財政状況を考えると、あまりにも現実離れしたものであることに驚いているのは、私だけではないと思います。

それは、この計画が、30数年前に《林業振興》を目的に計画されたものであり、そのままの計画で事業を進めようとしているところに、その原因が、あると思います。

この30数年間の間に、社会環境は、少子高齢化の時代の到来など、30数年前には、想像できないほど大きく変化をしており、当然の事ながら計画区域の人口も、大幅に減少しています。

森林関係産業についても、8/17、昨日の中国新聞に、【地元企業のウッドワンが、ニュージーランド産の木材を使った、床材やドアの拡販の結果、前年同期より2.6%の増収】と、いった記事が掲載されていますが、この記事に象徴されるように、国民の生活環境の変化等々で、とても初期の目的を達成出来るとは思えない程、衰退していることは、廿日市市民ならずとも、だれもが知っている事であります。

今、国は勿論の事、廿日市市に於いても、厳しい財政運営を強いられ、常に、市民からは《投資に見合う効果》を求められています。

そこで、あえて申し上げたいのは、恩恵を受ける人達が減少しているといえ、その人達からの突き上げもあったりして、一旦、決めた計画を変更するには、勇気がいる事かもしれません。

しかし《自然環境を守るために》あるいは《投資に見合う効果がない》といった反対運動によって、計画を変更する為の、大きな【きっかけを】与えてもらっているにもかかわらず、それを無視しているという事は、関係者には計画を変更する、といった考えは、当初から、まったくなく、対象区域の《道路の幅員を狭める》といった姑息な手段を使ってまでも、30数年前の計画どおり工事を進め、早く、予算として決められた約30億円を使ってしまいたい、といった悪い意味での役人根性をかいまみる気がするわけですが、言い過ぎでしょうか？

廿日市市では3月の予算総会で《廿日市市重度心身障害者医療費支給条例の一部を改正する条例》を審議致しました。中身は、県からの補助金が、約650万円減額されたが、廿日市市も財政が厳しく、肩代わり出来ないのも、その分だけ障害者の皆さんの負担を増やすことにする、といった内容のもので、普通の神経では、とうてい賛成できるものではありません。

他の項目を削って費用を捻出できないか？という議論をしましたが、いずれも厳しい予算査定の中で算定されたものであり、結局トータルの考えの下、やむなく承認したという

ことがあります。

たったの、650万円の金が都合できなくて、対象となる、約2000人の身障者の皆さんに、自己負担を増やす結果になったわけであります。

今、たったの650万という言葉を使いました。適切な言葉ではない、と思いますが細見谷林道工事の30億円を対象に、物を言っている、ということで、ご理解を賜りたいと思います。

このように、わずかな予算でも、その使い方に苦労しているのが、地方自治体の実態であります。

それを考えた時、繰り返すようですが、国は800兆円からの借金を抱えているにもかかわらず、細見谷林道工事に関係している皆さんは、自分の担当する仕事について、その費用対効果を考え、経費の節減に努力しようという考えには、ならないのでしょうか？不思議に思うところであります。

さて小泉さんが、改革を訴え、総理大臣になったのは、約五年前であります。郵政民営化や高速道路計画の見直しに取り組み、地域によっては、高速道路の建設を中止したところもあります。

今、広島の片隅の廿日市市で、30数年前に計画された林道整備工事を、《自然環境を破壊する・今の時代に投資に見合う効果がない》といった理由で、多くの皆さんが、反対しているのに、その反対を無視してまで、30億円もの国民の税金を使って、強行しようとしている事を、小泉さんが知ったら、なんと答えられるでしょうか。天皇陛下のお言葉ではありませんが、《親の心・子知らず》と、さぞ、嘆かれるのではないかと思います。

また、夕張メロンで、有名な北海道の夕張市が、財政破綻した事は、新聞・テレビで報道されているので、皆さんご承知の事と思います。その事を取り上げた、ミノ・モンタ氏の番組を2度ほど見る機会がありました。

せっかく夕張市へ来た人を、日帰りさすのは、もったいないということでホテルを建設した。また、せっかく来た人に、楽しんでもらおうと、ロボット館や遊園地等々を建設したが、すべて閑古鳥が、鳴いており、それが財政破綻の原因だと言われています。

責任は、市長や計画した役人に多く向けられているが、ミノ・モンタ氏は、市会議員の責任が一番重い。何人かが計画し、県や国から補助金の約束を取り付けたとしても、夕張市議会が、承認しなかったら、事業は成立せず、こんな財政破綻にならなかったはずだ。市民の代表である議員、すなわち議会は、行政の間違いを正すチェック機関である。常に住民の立場にたつて的確な判断を下す、責任があるはずだ。その判断をあやまって、市民に大きな迷惑をかけたことを考えると、議会は、もっと責任を追及されるべきであり、私は、議員は責任をとって、全員辞職すべきだ、と思っている。と、大きな声で、テレビの視聴者に呼びかける姿を見て、私も、議員の一人として、身の締まる思いが致しました。

今回の、細見谷の件については、事業区域である、旧吉和村との合併協議の中で、話があったと聞きました。したがって市長が『住民投票条例は制定しない』という判断を示し

た事については、やむを得なかったのかな？という思いがしますが、議員の立場は、どうでしょうか？

議員は住民の代表ですが、計画区域に住む議員もおられ、それぞれの立場が、あると思いますが、私は、【中国新聞の広場の声】や【ミノ・モンタ氏の言葉】は、誰が聞いても正論である、と思っていますから、今回の件については、後悔しないよう自分の気持ちに、正直に判断する事としました。

したがって、最後に申し上げたいことは、

まず一点目として自然保護の問題です。事業推進団体の発行しているビラには【溪畔林の部分は、現道を利用して改良される為、自然を壊す事はありません】と書いてありますが、日本生態学会という権威ある団体が指摘しているだけに、全面的に、信じるわけにはいきません。しかも工事費に30億円もかけるのに、自然を傷つけずに工事が出来るものでしょうか？

次に二点目としては、《投資に、見合う効果が、極めて低い》という事であります。年のせいか、時々馬鹿みたいな事を考えます。廿日市市は650万円の金が工面できずに、身障者の皆さんに、自己負担をお願いしました。また、ここに300億円の金で林道を作ろうとする事業があります。皆さんは、どちらに賛成されますか？と聞かれたら、私は、一も二も無く、身障者の皆さんの負担減に賛成致します。確かに、財布が違うので、単純比較は出来ませんが、私が、言いたいのは、廿日市市の予算も、われわれ国民の税金であり、国や県の予算も、同じ国民の税金であるということであります。しかるに、なぜ廿日市市の場合には厳しく、国や県の場合にはゆるやかなのでしょうか？

すべて予算を担当する人の心の問題だと思います。担当者に、常に市民や国民の為を思う心があればいくら厳しくとも了解を得られます。しかし、その心が無いから、今回のように、市民からだけではなく、中国新聞の広場の声のように、市外のみなさんからも、今・なぜ・と、いった大きな声になっている要因だと思います。

最後に三点目としては、工事完了後の維持管理を廿日市市に移管されること、についてであります。かつて旧大野町は、町の面積の8割が山林であり、また、その8割が町有林であった事から、通常的林道の維持管理だけではなく、大雨や台風の後には、必ずと、いっていいほど、補修費がかかっておりました。今回の維持管理費が、どのくらいになるか、公表されておりませんが、財政の厳しい中、みすみす経費の増大が目に見えている、この件についても、賛成できません。

以上、私の気持ちとして、どうしても容認できない、問題点を申し上げ、住民投票条例制定要求に賛成する立場での討論を終わります。